

鈴木隆道 特集号

自由民主 LIBERAL & DEMOCRATIC



発行所
自由民主党本部
郵便番号 100-8910
東京都千代田区永田町 1-11-23
電話 東京 03(3581)6211(代表)
振替口座 東京 00180-1-19518
定価 1部 105円(税込み)
<毎週火曜日発行>

自由民主党ホームページ URL <http://www.jm.or.jp/>

自由民主党は7月の東京都議会議員選挙を前に鈴木隆道さんの公認を決定し、必勝を期しています。鈴木隆道さんの、都政への抱負をご紹介します。

座談会出席者プロフィール

目黒区東山在住。
鈴木隆道さん
(54才)
家族構成は夫妻、子供3人。



目黒区中根在住。
岡田(弥) (48才)・慶子夫妻
家族構成は夫妻、子供中3、小6、小3、年長、1才の7人。



目黒区南在住。
伊庭秀幸 (43才)・理子夫妻
家族構成は夫妻、両親、子供中3、中1の6人。



「興味をひきだし」 与える教育改革

子どもの教育に関して、親たちは数多くの悩みを抱えている。今、学習塾に「宿題を出して欲しい」と希望する親が増えているという。ゆとり教育の目的、生きる力や豊かな人間性を育むということについては理解できるものの、実際の学校における教育方法に関しては、宿題や居残り学習のカット、主要科目の学習時間の削減が、子供たちが最も知識を吸収できるときに学ぶべきことを学べないのでは、という不安や、やがて来る大学受験などへの懸念となっている。また、親の世代から見ると不自然にも思える、平等意識。騎馬戦や棒倒しをやらないう運動会に見られるように、競争自体をなくす教育が広がることへの疑問がある。さらには、家でゲームやネットをして遊ぶ子ども

アメリカンスクールとの交流や課外活動。 親たちは「教育の原点は家庭」と自覚を。

たちに「で遊んできなさい」と言える、安全な遊び場が少ないこと。子どもたちが本当にゆたかな人間に育つために、教育は今どう変わるべきなのだろうか？5月、自由が丘にある人気のテーマパーク「スイーツフォレスト」で、そんな様々な不安を抱える親たちの代表としてふた組の夫婦が、教育・福祉・環境問題等を軸とし18年余区政に取り組んできた鈴木隆道さんと語り合った。そこで浮かび上がってきたのが「親の過保護」と「教師、教育委員会など行政の問題」。今の教育現場の現状。ゆたかな人間を形成するための本当の教育、そのために、政治は何をしてくれるのか。鈴木隆道さんも3人の子どもを持つ親の目線から、語って

ほんのふらふらは 伊庭(妻) 公立中学に通う長男と、私立中学に通う長女。それぞれの学校の、教育の格差を感じています。



鈴木区議「ゆとり教育」への誤解が、今の教育現場にあると私は考えています。何かひとつのことでも自信がつけば、子どもの成績は上がるものなんです。その自信は勉強でも、スポーツでもいい。自分はこれが人よりも得意だと思わせる機会をなるべくたくさんつくることが、本当のゆとり教育なのではないでしょうか。大切なのは、ひきだしです。多くのひきだしを子どもたちに

ないでしょうか。
伊庭(夫) 何かあるとすぐに学校のせいにする親が多いのも気になりますね。
鈴木区議 そうですね。学校に責任を追求しすぎる傾向はあります。そのため、学校は熱意を持った教育ができないんです。議会でも私は、何度か体罰の問題を話したことがあります。体罰は確かにいけない事だけど、今は「頭をなでるの

子どもに冒険をさせる機会



岡田(夫) 運動会でリレーをしない、男女問わず「さん」で呼ぶ等、学校は「平等」を大切にしているようなのですが…。
鈴木区議 フリーターやニートと呼ばれる若年層の未就労者が増えている。「自分の子どもだけはそんなふうになってほしくない」皆さんそう思っていると思います。でも、社会に出たら競争は当然なんです。学校からおかしな「平等」を教えられて育った子どもたちが、はたしてそれを理解できるのだろうか、という不安が私にはあります。競争させることを全て排除してしまうのではなく、あの子はこの部分が優れている。また別の子はこの能力が高い。それを認めあい、かばいあいながら生きる方法を教えるのが、本当の「公正」と言えるのでは

「競争」が消えた教育

に示してあげること。そして子どもたちが自らそのひきだしをあけて、自分で興味の持てるものを探す教育をすべきなんです。ひとりひとりの能力や個性が発揮できるような「教育改革」が今必要だと思っています。



姿勢が必要なのです。私は、これからもそれを強く訴えていこうと思っています。
伊庭(妻) 子どもたちが、安心して遊ぶ場所がないんです。学校ではボール蹴っちゃだめ、野球やっちゃだめ、って。公園も、ただ木が繁っているような感じで雰囲気も悪い。
鈴木区議 自然を豊かな

安全な遊び場がほしい

東京の小学生を、飛行機をチャーターして北海道に連れていこう、という案が今、あります。帯広を中心に、受け入れてくれるというところがいくつかあるんです。そこで、子どもたちに1週間好きなことをさせる。また、青葉インターナショナルスクールというアメリカンスクールが交流をはかりたいと言ってきています。このように目黒区の子どもたちを受け入れてくれるところはあります。あとは学校側が積極的に子どもたちに機会を与える



もだめ」というおかしなことになっている。何故か。親が過保護だからです。先生は子どもを叱れないんです。臨海学校のような行事についても同様。危ないからやらない、という学校が増えてきています。だから、少くくならなければしてもケンカしてもいいよ、と言える環境を、家庭がぜひ作って欲しいんです。自分の子どもだけでなく全体を見る視野が、結果としていい影響を与えます。教育の原点は「家庭」ですからね。



「ハピネスオプンスイーツ」をテーマに、国際コンクールで入賞したり欧州の名店で修行してきたスーパーパーティシエ(洋菓子職人)などの一流菓子職人が一堂に集う、お菓子職人の殿堂。

住所/東京都目黒区緑ヶ丘二二二五七「ラケル自由が丘」
交通/東急東横線、大井町線「自由が丘」駅南口より徒歩五分
連絡先/五七三三ー六六〇〇

たちで守り、子どもたちが安心して遊べる場所をつくることも私たちの役目ですね。私は、放課後学校を解放して遊ばせてはどうか、という提案をしています。さらにそこに、地域でスポーツや音楽をやっている大人たちも入ってきてはどうでしょうか。これは都に言っていくべきことだと私は思っています。学校が本当の意味で開かれなければ、状況は変わっていかないでしょう。
岡田(妻) 私立の学校のように公立も、放課後課外活動をさせることはできませんか？
鈴木区議 できるでしょう。「希望者をつのって」といういうかたちにしてもいい。それは実現可能だと思います。そこで将来の日本を担う子どもたちに、外国に誇れる日本の文化に触れるなど、机の上では学べない本当の勉強をさせてあげたいですね。
岡田(夫) 子どもへの教育は、最大の投資ですね。
鈴木区議 まさにその通りだと思います。教育の本当の目的は「ゆたかな人間づくり」なんです。それを実現するためにも、安心できる遊び場や豊かな緑を持った、住む人々みんなが魅力を感じ